

静岡県本部編 (その4)

「じちけん集会」で焼津をまちあるき

三月に続き、「静岡じちけん集会」の第二弾を開催。じちけん活動のさらなる浸透をはかりました。



佐野ひかる・静岡県本部自治研推進委員

● 舞台は日本有数の漁港、焼津

二月に開催した五年ぶりの「じちけん集会」に続く企画として、七月一日に第二回じちけん集會を焼津市で開催しました。

今回は前回参加者を核に、じちけん活動を県内単組にもっと理解してもらい、新たなじちけん活動の誕生に結びつけることをめざしました。

今回も福井県本部自治研推進委員の橋本和久さんを講師にお招きし、じちけん

やモノを写真で撮影してもらい、その魅力やもつとよりよいまちにするための提案を発表してもらいました。

焼津市を歩いて目につくのは、各所に設けられた津波避難タワーです。しかし、通常は何も活用されていません。そこで、楽しみながら防災意識を高めてもらえるよう、津波避難タワーをめぐるスタンプラリーというアイデアが出されました。また、他のグループからは、タワーの最上階は涼しい風が吹き、街を一望できることから、夏のビアガーデンというユニークなアイデアも出されました。

この他、焼津市の中心部は平たん歩きやすく、街中に数軒ある和菓子屋と駅前前の日帰り温泉施設を組み合わせた、四キロほどのウォーキングイベントの提案や駅前にあるパーキングビルの一部を改装した託児所づくりといった提案もありました。

はじめての試みで、参加者の皆さんがじちけんを楽しむ感してもらえるのか不



第2回静岡じちけん集会参加者のみなさん

事例を聞くだけでは、遠くで頑張っている人の話で終わってしまうかもしれない。身近に感じてもらうために、開催地の焼津市における若者クラブをはじめ、静岡県内で自治体職員がまちづくりを楽しんでいる事例をご紹介します。

● 発見！焼津のいいところ

前回から進化したポイントはフィールドワークを取り入れたことです。グループにわかれた参加者が、二時間半ほど焼津のまちあるきをしました。まちあるきのテーマは、「発見！焼津のいいところ」。まちあるきをして、「ここは素晴らしい」「こんなところがあるのか!」という場所

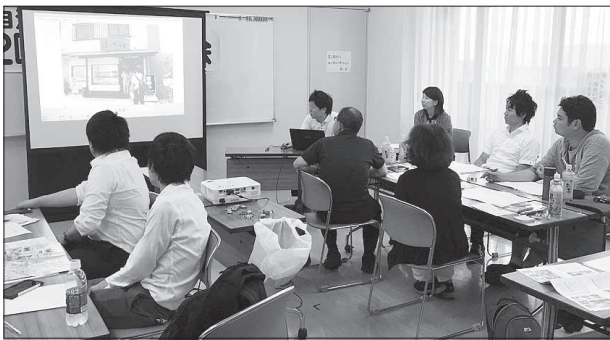
安でしたが、フィールドワークから帰ってきて和気あいあいと発表準備をしている皆さんの笑顔を見て、あらためて開催して良かったと思いました。

また、じちけん活動とは、人それぞれが持つ観点がプラスに働く組合活動だと身を持って体感し、さらに多くの可能性を感じました。

● 誕生なるか?! 静岡じちけん部

最後に講師の橋本さんから、市民と自治体職員が「わたしたち」という共通の意識で、まちのこれからを考える場の重要性についてお話をいただきましたが、参加者同士の間でも「わたしたち」という意識が少しずつできてきたかもしれせん。

一方で、今回の集會を準備するにあたり、現場をもっている単組と違い、県本部としてじちけん活動を推進する難しさを感じる場面もあり、今後の展開をどうするかが悩ましいところです。



フィールドワークでの発見をグループごとに発表

そんな雰囲気を感じて、橋本さんから「難しく考えずに、まずは過去二回の集會参加者を中心に、静岡じちけん部」を立ち上げたいよ」とのアドバイス。今年からスタートした静岡県本部のじちけん推進活動ですが、そろそろ県本部だけを母体とする展開に限界を感じています。今後は、単組役員を巻き込んでいくように検討していきたいです。

行橋市職労編(その2)

活動コンセプトは「継続」と「有志」

「職場内自治研」と「地域自治研」を二本柱に、具体的な活動がスタートしました。



栗原慎司

行橋市職員労働組合自治研担当

●二つの活動コンセプト

UNDEER 35企画「JK課×自治研」ゆるプロ」に参加したことが大きなきっかけとなってスタートした行橋市職労の自治研活動。まず活動を始めるにあたって、二点の活動コンセプトを決めました。一点目は「継続」です。これは、自治研を知っている人が少ないこともあり、学習会を中心に活動を始めようかとも考えたのですが、習うより慣れよ！で、まずは自治研を身近な課題解決や交流のツールとして活用してもらおうことになりました。

何より実践し結果が出れば、身をもって成果を実感でき、より自治研に対する関心が高まります。小さな挑戦（できれば成功体験）を「継続」していくことで、口コミで自治研活動が広がってくれることを期待して「継続」をひとつのコンセプトとしました。

もう一点は、自治研活動の性質上、強制し参加しても業務との境界が曖昧になり、負担感から成果にも繋がりにくく本末転倒になってしまいうるので、「有志」による活動とする。

この二点のコンセプトを設定し具体的な活動方針を決めていきました。

●「職場内自治研」と

「地域自治研」を二本柱に

実際の取り組みはこれからですが、「職

く計画でいます。

●第一回「職場内自治研」開催

学習会とあわせて自治研活動の説明会を行い「職場内自治研」の活動テーマ募集を始めました。そして、応募のあつたいくつかの活動テーマのなかから「来庁者用駐車場不足」を選び、六月一日に第一回「職場内自治研」を開催しました。業務後一時間程度の活動でしたが、約一〇人の組合員の参加があり、議論がはじまりました。立体駐車場、有料化、用地を広げるなどの意見が出ていましたが、途中から「市役所に住民が来ない（来なくて済む）ようにする」という面白い方向に議論が進んでいますので、経過観察中です。

まだ活動がはじまったばかりで、実際の活動はこれからですから、どうなるか未知数ですが、「継続」と「有志」という二つのコンセプトで活動を進めていきたいと思います。

場内自治研」と「地域自治研」の二本柱の活動を考えています。

まず、「職場内自治研」では、日頃から感じている疑問や悩んでいる課題など身近なテーマを募集し活動を行うことになりました。集まったそれぞれのテーマに興味のある人、深く関わる人など有志が集まり小規模なグループで自由に議論を進めてもらうというものです。

文章で書くとしても堅くなってしまうですが、活動のイメージは、過去に私自身が経験した学習会での出来事が基になっていきます。その学習会では、参加者がテーマを提案し議論するというグ



パソコンを捨てて、町に出よう

「継続」と「有志」を合言葉に発表した行橋市の自治研、期待が持てます。「職場自治研」は無事にスタートしたようですが、「地域自治研」については「住民やボランティア団体など一緒になってまちづくりの課題に取り組む活動を行うつもり」とのこと。ただ経験上、会議室のなかやパソコンの前であれこれ課題を探してもなかなか進まないものです。この際、つてを探して市民団体の会合にお邪魔してみてもどうでしょうか？ そこから「こんな悩み・課題がある」「こんな事業がしたかったけど自分たちだけではできなかった」というような声を拾うわけですね。そしてその実現に向けていっしょに取り組むという形が、むしろやりやすいのではと思います。「案ずるより産むが易し」。思いきって、役所の外にでかけてみませんか？

(自治研マイスター)

まずは、「職場内自治研」を中心に、自治研活動の浸透や自治研の腕を磨くことを目標として活動を行います。その後、徐々に「地域自治研」の活動も始めてい

グループワークを行ったのですが、短時間であったにも関わらず社会問題として取りあげられるような大きなテーマを選んではしまったために、見事に時間切れになって悔やまれました。そこで講師の方に「自治研は業務ではないから失敗していい、議論したこと、新しいメンバーと交流できたことが成果だ」とフォローして頂いた経験が、とても印象深く残っており、そういう「気楽に集まり、楽しく議論し、時に熱くなる」ような活動をイメージしています。

「地域自治研」では、「職場内自治研」で提案された企画の実践や、住民やボランティア団体など一緒になってまちづくりの課題に取り組む活動を行うつもりですが、具体的な活動は現時点では未定です。